

活動実績 (2018年12月～2019年5月)

- 【地域活動】
- 自然と環境の学習の場創り事業
 - ・緑化活動: 南岸12/15(土)、北岸1/19(土)、2/16(土)、4/20(土)、5/18(土)
 - 出前講座
 - ・緑化推進講座@那覇市緑化センター: 「うちなー素材でクリスマスリースづくり」12/2(日)、「アラマンダの育て方」1/20(日)
 - 第4回水と緑の講演会1/30(水)
 - イベント出展
 - ・第24回国場川水あしび: 12/8(土)
 - 会員交流プログラム「漫湖・野鳥観察ウォーキング」: 3/16(土)



ご参加
ありがとう
ございました

- 【国際協力】
- 受託事業
 - ・JICA草の根技術協力事業「南東スラウェシ州ワカトビ県における地域に根差した環境保全型観光開発の推進」: 2017/3/15(水)～2020/3/31(火)



第24回国場川水あしび

詳細は
お問い合わせ
ください



- 【国際協力】
- 受託事業
 - ・JICA研修員受入事業: 課題別研修
 - 熱帯・亜熱帯におけるエコツーリズム企画・運営(A): 7/8(月)～8/23(金)
 - 熱帯・亜熱帯におけるエコツーリズム企画・運営(B): 10/7(月)～11/22(金)
 - ・JICA草の根技術協力事業「南東スラウェシ州ワカトビ県における地域に根差した環境保全型観光開発の推進」: 2017年3/15(水)～2020年3/31(火)

活動予定 (2019年6月～11月)

- 【地域活動】
- サガリバナ観賞会: 国場集落6/28(金)、首里崎山町馬場通り6/29、30(土・日)、末吉公園7/6、7(土・日)
 - 自然と環境の学習の場創り事業
 - ・緑化活動: 北岸6/22(土)、7/20(土)、8/17(土)以降、毎月開催予定
 - 出前講座
 - ・沖縄県緑化推進委員会「みどりの講演会」: 7/26(金)
 - 団体受入
 - ・NECマネジメントパートナー: 6/29(土)

- ・トヨタソーシャルフェス: 7/13(土)、10/26(土)
- 第5回おきなわエコツーリズムセミナー: 10月予定
- イベント出展
 - ・県民環境フェア2019: 秋ごろ予定
 - ・第25回国場川水あしび: 11～12月予定
 - ・おきなわ国際協力・交流フェスティバル: 11月予定
- 水辺講座: 夏休み期間中に児童クラブなどを対象に予定

お知らせ

会員・ボランティア募集

入会申込はホームページからお願いします。緑化活動をお手伝いして下さるボランティアを随時募集しています。お気軽に電話やメールでご連絡ください。

達人デリバリー (出前講座) ミライへ・プロジェクト (団体受入)

お申込み・お問い合わせはこちらまで!
TEL 098-833-9493
E-mail gyomu@npo-oec.com

新スタッフ ごあいさつ



4月より「国場川ごみゼロ作戦」を担当しております、金城明子と申します。

これまで東京の環境団体での温暖化対策推進業務や、青年海外協力隊として南米ペルーでの現地のごみ問題に取り組んでまいりました。

OECを通して念願だった沖縄の環境活動に携わることができ、うれしく思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

(研究員 金城明子)

会員交流プログラムアルバム

3月16日(土)に開催した会員交流プログラムの様子。報告①に関連記事あり。



野鳥の解説をする水鳥・湿地センターの富田さん



ゲットウの植栽



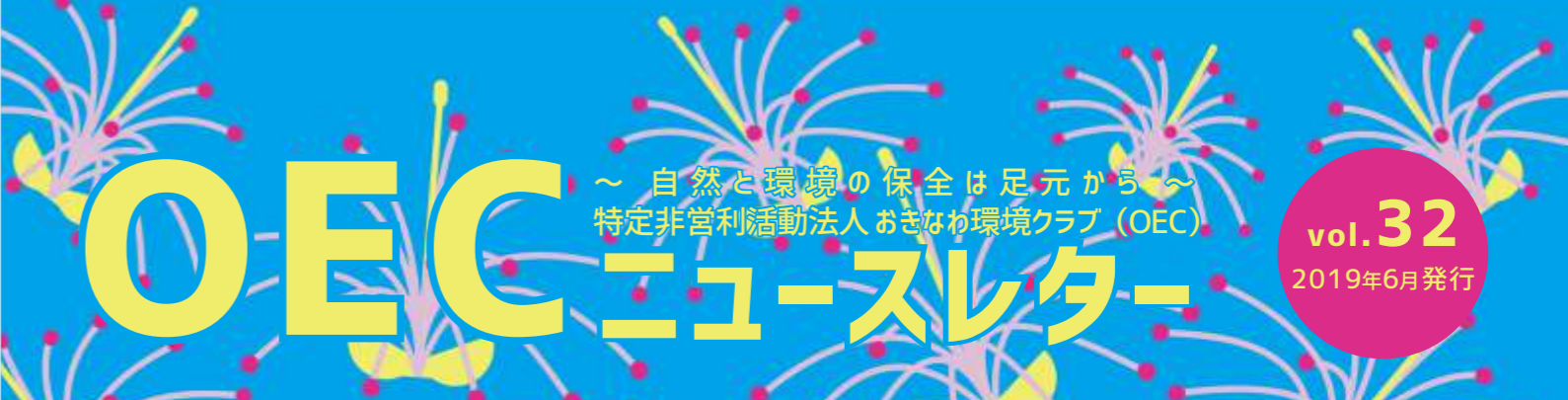
川の真ん中にたたずむアオサギ



水鳥・湿地センターのテラスでゆんたく

特定非営利活動法人 おきなわ環境クラブ

〒902-0075
沖縄県那覇市国場370番地307号室
TEL 098-833-9493
FAX 098-833-9473
ホームページ
<http://www.npo-oec.com>
e-mail kokuba@npo-oec.com
www.facebook.com/OkEnv



～自然と環境の保全是足元から～
特定非営利活動法人おきなわ環境クラブ (OEC)

vol.32
2019年6月発行

- 【1面】
- サガリバナ観賞会今年のスケジュール
 - 国場川ごみゼロ作戦

- 【2面】
- サポーターの声: 大嶺スミ子さん
 - ワンギ★ワンギ島通信 No.5
 - ひろがる OECの緑化活動

- 【3面】
- マングロープのつぶやき～その14～
 - 野鳥観察ウォーク
 - 第4回水と緑の講演会

- 【4面】
- 活動実績
 - 活動予定
 - お知らせ
 - 会員交流プログラム アルバム

バリントニアちゃん ©OEC2019

トピック① サガリバナ観賞会 今年のスケジュール

沖縄の初夏の風物詩として定着しつつあるサガリバナ (*Barringtonia racemosa*) だが、毎年のように春先に葉を散らす木が多い中、今年は緑の葉を茂らせたまま花を咲かせ始めた木が多いように感じる。これは冬の寒さと関係しているのではないかと、今年のサガリバナを見ながら思う。

毎年開催しているライトアップイベントで皆さんに喜んでいただくためにも一斉に咲いてほしいと願いつつ、いろいろな要因で毎年のように、また木によっても花の咲かせ方が異なるサガリバナの花は、変化の多い自然の中での植物のしたたかな生き方を感じさせてくれる。

そんな中、今年も国場と首里崎山町、そして末吉公園でのサガリバナライトアップイベントを地域の皆さんと一緒に開催する予定だ。夜に咲くため、早朝の散歩でもしない限り見る機会の少な

い花だ。咲き始めの芳香と共に楽しみいただきたい。(事務局長 立田亜由美)

- 国場集落ガイドツアー
 - ・6月28日(金) 20:00-21:00
 - ・定員25名 要申込
- 首里崎山町馬場通(瑞泉通り)「さがり花観賞の夕べ」【歩行者天国】
 - ・6月29、30日(土・日) 19:30-21:30
 - ・申込不要 来場無料
- 末吉公園「さがり花観賞会@末吉公園」
 - ・7月6、7日(土・日) 19:30-21:30
 - ・申込不要 来場無料



国場川の近くで咲くサガリバナ(昨年のガイドツアー)

トピック② 国場川ごみゼロ作戦 ご支援をお願いします!

OECは、この度あいおいニッセイ同和損害保険株式会社様より寄付金を賜り、「国場川ごみゼロ作戦」を開始する。

国場川、饒波川、長堂川を含む国場川水系流域は那覇市をはじめ本島南部広域に渡り、約40万人が住む産業活動が盛



国場川に泳ぐ鯉のぼり

んな地域であるためか、河川ごみの量が最も多い川である(平成26年度 沖縄県調査)。また、海洋プラスチックや漂着ごみの問題は昨今、国際的課題に掲げられるほど深刻だ。

OECは、設立当初より国場川河口域に位置する漫湖の河岸や周辺の公園をフィールドに、水辺の緑化活動と併せて流域からの漂着ごみ問題を取り上げ、水辺の環境学習プログラムを展開してきた。

「国場川ごみゼロ作戦」では、皆様からの寄付金により、国場川水系流域全体で地域住民を対象とした環境啓発活動を実施していく。



あいおいニッセイ同和損保の谷昭廣沖縄支店長(右から2人目)から寄付金の目録を受け取る下地会長(同3人目)

OEC近くの国場川橋梁では、こどもの日にあたり、地域の子供たちが手掛けた鯉のぼりが数多く掲げられ、住民の憩いの場となっている。この国場川の風景が美しく保たれるよう、広く皆様からのご協力を賜りたい。

(研究員 金城明子)

トピック③ サポーターの声：大嶺スミ子さん

今回紹介するのは、那覇市国場在住の大嶺スミ子さん。

大嶺さんには、国場にあるサキシマスオウノキの情報収集をしていた当クラブ会長が故大嶺秀雄さんを訪ねたことがきっかけで出会った。毎年6月下旬に開催している国場集落サガリバナ観賞会では、ライトアップしたお庭を観賞場所とし

て開放いただき、サガリバナにまつわる話を語っていただいている。

樹齢約50年のサガリバナがあるお庭には、一夜限りの儂い花を一目見ようと、毎年多くの見物客が訪れるそうだ。「私たち家族の思い出が詰まった自慢のサガリバナを、たくさんの人に見てもらい、とてもうれしい」と大嶺さん。



大嶺スミ子さん

国場屈指のサガリバナの花には、これからは多くの人々が癒されることだろう。(研究員 高嶺正満)

コラム マングローブのつばやき～その14～ 環境省と沖縄県の思い込み？



州崎マングローブテラスの掲示版

沖縄本島のうるま市州崎(中城湾埋立地)と国場川河口(漫湖)では「マングローブへの思い込み」からと思われる壮大な実証実験が行われている。埋立地岸では沖縄県がヒルギダマシを、漫湖では環境省がメヒルギを除去・刈取りしている。

州崎のヒルギダマシは、平成6(1994)年頃、旧特別自由貿易地域造成埋立て工事の一環で人工的に造られたマングローブテラスへ本島産ヒルギ3種とともに八重山から移植された。メヒルギは、有名な鹿児島県喜入

の「特別天然記念物 リュウキュウコウガイ産地」のように、国内では最も北まで分布しており、沖縄の河川ではポピュラーな種である。漫湖では人工的に一部植えられたものの、流域から土砂やごみなどが流入堆積したことで河口干潟(漫湖)が浅くなり、海水が達する下・中流地点に元々あったメヒルギが特に生育範囲を広げてきた。

州崎では「トカゲハゼ生息域の確保」を、漫湖では「水鳥の渡来数増加



メヒルギの切り株



ヒルギダマシを除去した跡

(採餌場の確保)」を目的に除去・刈取りが行われている。マングローブ生育域の拡大による「陸地化(?)」が両地に共通して目的を阻害する要因とされているが、はたしてトカゲハゼや水鳥の数は増えたか?実験結果を待ちたい。

(会長 下地邦輝)



広範囲で伐採されたメヒルギ

ダイバー・秘境 ワンギ★ワンギ島通信 No.5 JICA草の根プロジェクト@インドネシア・ワカトビ海洋公園

この現場も最終年の三年目に入りました。昨年11月の島内の文化祭(WAVE)へのブース出展に始まり、現在は住民グループ(Wakapala)とのツアー宣伝活動に力を入れています。3月には南スラウェシの州都マカッサルで行われたニッポン・デーのJICAブースへWakapalaメンバー3名が参加し、また4月にはジャカルタのDXI 2019(ダイビングとアドベンチャーの見本市)のワカトビ観光局ブースにWakapalaメンバー2名と一緒に参加しました。

その際、学生グループが「島はなぜワンギ・ワンギ(香り・香り)と呼ばれるのですか」と質問しました。Wakapalaのマンティさんによると・・・昔、島に侵入者が上陸した時、島には丁子などのスパイスがたくさんあり、その香りが漂ってきたそうです。島を侵略する際、侵入者は住民が隠れられないように木々を切り倒し、二度とこの木が生えないように魔術を掛けました。それ以来この木は植えても育たなくなりました。ところが、何人もの人が大木に実る丁子を何本も目撃します。ある人は、印をつけて、隣人と実を取りに行こうとしましたが、辿り着けません。木は精霊のようなものに守られているからです!

さあ、あなたもぜひWakapalaの冒険・文化ツアーや不思議な世界を体験しにワンギ・ワンギ島に来てみては? (研究員 山本朝子)



左上より反時計回りに:WAVEのブースでジャカさん(左)の手工芸品に集まる来場者、ニッポン・デーで宮川在マカッサル日本領事事務所長とWakapalaメンバー3名、同イベントで商品を販売したジャカさん(右)、DXIで来場者対応をするアミルさん(中央)、冒険番組のテレビスターのMarshallさん(中央)が来場して対応したマンティさん(左)と筆者(右)、民族衣装のマンティさんと島の名前についての質問をした学生グループ

トピック④ ひろがる OECの緑化活動

当クラブの活動の趣旨に賛同いただいている団体の中に一般財団法人セブン・イレブン記念財団がある。同財団には、昨年度に引き続き今年度も助成いただけることになった。感謝の気持ちでいっぱいである。

今年度は「沖縄本島や宮古島で平地と川辺と海の森づくり活動」と銘打ち、国



キダチハマグルマ(Melanthera biflora)

場川河口域(那覇市・豊見城市)、州崎のマングローブテラス(うるま市)、添道・ヤーバル・与那覇湾(宮古島市)で緑化活動を実施する予定だ。

当クラブでは通常毎月第3土曜日に緑化活動を行っており、ホームページ



ハマゴウ(Vitex rotundifolia)

やフェイスブック、新聞本紙・副読紙でも参加者を募集している。毎月違う表情を見せてくれる動植物が楽しみだ。使う道具はOECで準備済み。希望者にはボランティア活動参加証明書を発行している。

(研究員 高嶺正満)

報告② 第4回 水と緑の講演会「漂着ごみを考える」

近年クローズアップされ、対策が課題となっている海洋漂着ごみ問題をテーマに、1月30日(水)、JICA沖縄ニライホールにおいて、第4回水と緑の講演会「漂着ごみを考える」を開催した。会場には30名近い方が集

報告① 野鳥観察ウォーク(会員交流プログラム)



クワツラヘラサギとも出会えた

寒さが和らぎ心地よい風が吹く3月16日(土)、2018年度会員交流プログラム『漫湖・野鳥観察ウォーク』を開催した。一年に一度、会員やボランティアの方々との交流を目的に企画しており、今年は漫湖水鳥・湿地センターでの開催となった。

まずは、センターから爬龍橋までの往復約2kmをセンター職員の富田宏さんに野鳥の話をしていただきながら歩

き、センターに戻ってゲットウの植樹をした後、テラスでサンドイッチとお茶をいただきながら“ゆんたく”をして、日頃お世話になっている皆さんと有意義でとても楽しい時間を過ごすことができた。

(主任研究員 川上典子)



センターに植栽したゲットウと一緒に



講師の松田課長(左)と古我知代表(右)

まり、県環境部環境整備課の松田了課長と沖縄リサイクル運動市民の会の古我知浩代表の講話を聴き、意見を交換した。

(事務局 立田亜由美)